

歴史「日清戦争～日露戦争」

組 番 氏名

○次の風刺画と年表は日露戦争をめぐる東アジアの国際情勢を表している。

教科書 p 178 1

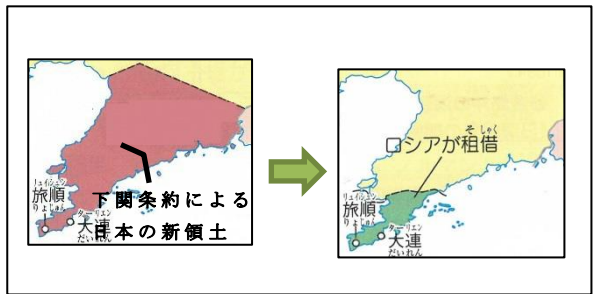
「東アジアの情勢」(ビゴアの風刺画)

1894年	日清戦争
1895年	下関条約
1895年	三国干渉
1902年	日英同盟
1904年	日露戦争

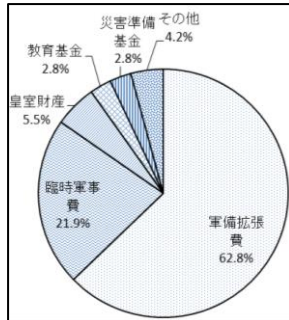
資料1 下関条約の主な内容

- 1) 朝鮮が独立国であることを承認する
- 2) 遼東半島・澎湖諸島・台湾を日本に割譲する
- 3) 2億両の賠償金を日本に支払う
- 4) 清国内の蘇州・杭州・重慶などの諸都市、および開市開港地において日本が商工業活動を行うことを承認する

資料2 遼東半島の情勢

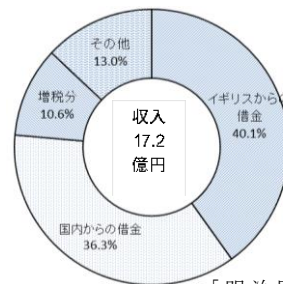


資料3 日清戦争の賠償金の使い道



「近代日本経済史要覧」より作成

資料4 日露戦争における軍事費



「明治財政史」より作成

日清戦争後から日露戦争に突入していった経緯を、年表を参考にして上の資料1～4を読み取り説明しなさい。

【解答】

(例) 日本は、下関条約で得た遼東半島の利権を三国干渉で返還せざるを得なくなった。その後、遼東半島は干渉してきたロシアに租借されることになったので、ロシアへの対抗心が高まり、賠償金のほとんどを軍事関連の経費として使うことになった。(イギリスがロシアの南下を警戒していたこともあったので、)日本はイギリスと同盟を結ぶことができた。そしてイギリスからも多額の借金をしてロシアと戦争することになった。

< 正答の条件 >

- ・ 年表の流れに沿って説明している。
- ・ 資料1で、日本が得た(遼東半島の)利権について指摘している。
- ・ 資料2で遼東半島の利権が日本からロシアに移ってしまったこと(三国干渉があったこと)を指摘している。
- ・ 資料3で賠償金の使い道の多くが軍事費にかけられたことを指摘している。
- ・ 資料4で、日本が日英同盟を結べたことで、多くの資金を借金できていることを指摘している。
(イギリスや国内からの借金の多さにふれていても可)

【解説】

この問題は、年表を手がかりに、資料を読み取りながら自分の言葉で説明していかなければならない難しい記述問題である。授業のまとめとして「①時代の流れを把握する」「②資料を適切に関連づけながら読み取る」「③関連づけたことを適切な文章で書き表す」ようなことを繰り返すことでうまく表現できるようになる。先生に書いたものを見てもらうのもよい。